四国災害アーカイブス

アーカイブスあらかると

Vol.118～129（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

一般社団法人　四国クリエイト協会

はじめに

四国災害アーカイブスは、過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、地域防災力の向上のためにできるだけ多くの人々に活用してもらえるようインターネットを通じて情報を提供するものです。平成 24 年 7 月に部分的運用として地震・津波の情報提供を開始し、平成 25 年 7 月からは第二弾として土砂災害、渇水の情報を追加、平成 26 年 7 月よりすべての災害種類の情報を提供する本格的な運用を行っています。

「アーカイブスあらかると」は、皆さまに少しでも四国災害アーカイブスへの関心を持っていただくために、平成 24 年 7 月以来、毎月、四国災害アーカイブスのＷＥＢサイトに掲載してきたコラムです。この冊子には令和 4 年度分 Vol. 118～129（2022 年 4 月～2023 年 3 月）のコラムを編集して収録しています。

この冊子が多くの人に活用され、四国災害アーカイブスが四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っています。

令和 5 年 4 月

一般社団法人　四国クリエイト協会

理事長　　木村　昌司

目　　次

■Vol.118（2022 年 4 月）水を引く・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

・西州津用水（徳島県三好市）

・栃ノ木堰用水（高知県安芸市）

■Vol.119（2022 年 5 月）ため池の改修・・・・・・・・・・・・・・ 5

・三郎池（香川県高松市）

・鹿の子池（愛媛県今治市）

■Vol.120（2022 年 6 月）昭和 14 年の干ばつ・・・・・・・・・・・ 9

・仁池（香川県丸亀市）

・楠見池（香川県丸亀市）

■Vol.121（2022 年 7 月）前線による豪雨災害・・・・・・・・ 13

・梅雨前線による豪雨水害（愛媛県大洲市）

・秋雨前線による豪雨災害（高知県土佐清水市）

■Vol.122（2022 年 8 月）海岸堤防の決壊・・・・・・・・・・・・ 17

・大手海岸の堤防決壊（徳島県阿南市）

・大可賀新田の堤防決壊（愛媛県松山市）

■Vol.123（2022 年 9 月）9 月の台風・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

・昭和 20 年の枕崎台風（徳島県美馬市）

・昭和 28 年のテス台風（香川県東かがわ市）

■Vol.124（2022 年 10 月）河川堤防の決壊・・・・・・・・・25
・明治 19 年の立岩川堤防の決壊（愛媛県松山市）
・大正元年の安田川堤防の決壊（高知県安田町）
■Vol.125（2022 年 11 月）安政地震の津波・・・・・・・・・29
・牟岐小学校前の大震潮記念碑（徳島県牟岐町）
・上岡八幡宮の安政地震記念碑（高知県香南市）
■Vol.126（2022 年 12 月）津波は何度も来る ・・・・・・・・・・33
・浅川天神社前の南海大地震記念碑（徳島県海陽町）
・宇佐の震災復興記念碑（高知県土佐市）
■Vol.127（2023 年 1 月）人名が付いたため池・・・・・・37
・勝田五郎兵衛と勝田池（香川県三豊市）
・武智彦八と彦八池（愛媛県東温市）
■Vol.128（2023 年 2 月）村人を助けたい・・・・・・・・・・41
・萱原用水と久保太郎右衛門（香川県綾川町）
・中山池と太宰遊淵（愛媛県宇和島市）
■Vol.129（2023 年 3 月）津波を後世に伝える・・・・・・45
・東由岐天神社下の南海地震津浪最高潮位石柱
（徳島県美波町）
・野見海岸の震災復旧記念碑（高知県須崎市）
■四国災害アーカイブスの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

水を引く

日照りで水不足の時には、川から水を引いてくることが考えられます。しかし、それを実現するためには関係者間の調整や人々の協力、技術、資金などが必要になります。小学校の社会科副読本に、地域の先人が努力して人々のために水を引いてきた事例が示されています。徳島県三好市の西州津用水と高知県安芸市の栃ノ木堰用水の例をご紹介します。

■西州津用水（徳島県三好市）

明治 27 年（1894）頃、日照りが続き、箸蔵地区では農作物が枯れ、飲み水にも困りました。三人の青年（森本半次、森本磯太郎、萩田勘平）は、鮎苦谷（あゆくるしだに）川から取水して経塚山にトンネルを掘って用水路を通す計画を立てました。村人に説いて回りましたが、賛成してくれる人はいませんでした。三人は自分たちの財産を投じて用水路をつくることを決意し、明治 29 年に測量を開始、翌年からつるはしとのみで工事を始めました。途中から川人近蔵が加わって四人で工事を進め、大雨でトンネルが崩れるなどしましたが、困難を乗り越えるうちに村人も協力するようになり、明治 32 年に西州津用水が完成しました。西州津用水に功績のあった四氏を讃えて、大正 14 年に養水路紀念碑が建立されました。＜池田町社会科副読本編集委員会編「わたしたちの町池田」1998 年＞

西州津用水の養水路紀念碑

西州津用水のトンネル出口

Vol.118（2022 年 4 月）水を引く②

■栃ノ木堰用水（高知県安芸市）

安芸川には古くからいくつかの堰があり、各地で安芸川の水を利用していましたが、大正時代に米づくりが盛んになると水が足りなくなりました。特に日照りが続くと、安芸川の水が減り、水を取り合う水争いが何度も起きました。代表者が話し合いを重ねた結果、堰を一つにして栃ノ木堰で取水した水を用水路で下流に流してみんなで利用する計画を立て、耕地整理組合をつくり、工事を高知県にお願いすることにしました。栃ノ木堰は高知県で初めて水中コンクリート工法でつくられ、大正 12 年に工事を始め、7 年間かけて昭和 5 年に完成しました。人夫約 9,500 人を要した大工事でした。昭和 42 年に栃ノ木堰記念碑が建立されました。＜社会科副読本改訂編集委員会編「わたしたちの安芸市」2012 年＞

栃ノ木堰記念碑

栃ノ木堰

栃ノ木堰記念碑
栃ノ木堰
用水
安芸川
(地理院地図に加筆)

ため池の改修

ため池には、かんがい用水を確保するほか、大雨を一時的に貯めて洪水を調整したり、土砂流出を防いだり、自然環境の保全や憩いの場を提供するなどさまざまな機能があります。これらの機能を維持・向上させるため、また老朽化に伴う決壊防止などのため、ため池の改修が行われています。高松市の三郎池と今治市の鹿の子池の例をご紹介します。

■三郎池（香川県高松市）

三郎池はもともと三谷池と呼ばれていましたが、修築拡張され、満濃太郎、勝間次郎についで三谷三郎と並び称されたために、三郎池と呼称されるようになりました。三郎池は、寛永 3 年（1626）の干ばつを契機に翌々年の寛永 5 年に築造され、その後享保 16 年（1731）など数度にわたって改築が行われてきました。近年では昭和 6 年 3 月竣工の県営事業で堤体嵩上げと樋管、洪水吐などの増改築が行われ、貯水量の増大が図られました。それから 50 年ほどを経て老朽化が進み、堤防、底樋、余水吐等から漏水するとともに、堤防前面が波浪浸食され危険になったため、昭和 57 年から県営大規模老朽ため池等整備事業が行われ、平成 3 年 3 月に竣工しました。＜讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年、県営三郎池改修工事記念碑の碑文＞

三郎池

県営三郎池改修工事記念碑

由良山
県営三郎池改修
工事記念碑
三郎池
（地理院地図に加筆）

Vol. 119（2022 年 5 月）ため池の改修②

■鹿の子池（愛媛県今治市）

鹿の子池の創築は不詳ですが、元和 6 年（1620）領主加藤嘉明が行った古谷村の検地帳にカノコに池があったことが載せられています。それから約 150 年後の明和 8 年（1771）に、鹿の子池の貯水量を倍増させるため、200m 余の新堤を構築する拡張工事が行われました。労務は池かかりの住民が総動員で参加し、29 年を要して寛政 11 年（1799）にようやく竣工しました。この改築により池がかりは干ばつの憂いから解消されました。その後、大正 15 年に災害による一部堤体復旧、昭和 17 年に堤体の補強などがなされましたが、築堤以来 200 余年を経て堤の老朽化が甚だしく、昭和 58 年に愛媛県により鹿の子池の改築工事が着手され、平成 3 年 3 月に竣工しました。＜鹿の子池の沿革碑及び鹿ノ子改修記念碑の碑文＞

鹿の子池

鹿ノ子池 堤体
水路 改修記念
鹿ノ子池改修記念碑

伊予富田駅
鹿ノ子池改修
記念碑
鹿の子池
(地理院地図に加筆)

昭和 14 年の干ばつ

昭和 14 年(1939)、香川県は田植えの頃から雨が少なく、干ばつに見舞われました。7 月 23 日に藤岡長敏県知事が滝宮天満宮（綾川町）で雨乞い祈願を、8 月 1 日には城山神社（坂出市）でも雨乞い祈願をし、さらに 3 日に県下一斉雨乞い祈願を行うほどでした。この干ばつを契機に、香川県は満濃池の増築、長柄ダム・内場ダムの建設などに取り組むことになりました。当時の飯山町（現丸亀市）の仁池と楠見池の様子をお伝えします。

■仁池（香川県丸亀市）

昭和 14 年（1939）は 7 月、8 月の降雨量が極端に少なく、8 月下旬には県下のため池に貯水がなくなり、仁池掛かりの地域も水に苦しみました。仁池では最後の配水について理事、水利監督などが協議し、上法（飯山町）と富熊（綾歌町）のどちらからかん水するかをくじで決め、上法が先になりました。8 月 28 日、29 日（24 日、25 日とも言われます）に上法地区は切り流しでかんがいすることができましたが、順番が後になった富熊の方へは配水できませんでした。待望の雨は 9 月 9 日に降り、それまで井戸水などで持ちこたえてきた稲は救われたものの、枯死した水田も多かったとのことです。＜讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年＞

仁池

飛遊神社

上法
宮熊
飛遊神社
仁池
（地理院地図に加筆）

Vol. 120（2022 年 6 月）昭和 14 年の干ばつ水②

■楠見池（香川県丸亀市）

昭和 14 年（1939）は梅雨入りより干天続きで、未曾有の干ばつとなりました。多度津測候所の降水量は 7 月 28.4 ミリ、8 月 5.3 ミリ、坂出では 7 月 15.7 ミリ、8 月 2.8 ミリと極めて少雨でした。県内各地で雨乞いが行われましたが、願いはなかなか通じませんでした。飯山町の楠見池掛りでは、わずかに池尻だけが収穫でき、それ以外は 9 月 9 日の降雨（岡田小学校観測で 41.5 ミリ）でも蘇生しませんでした。それでもこの雨は人々が待ちこがれたもので、飯野山東麓の三ノ池古墳には「昭和十四年九月雨乞成就　八大龍王」の碑が建立されています。飯野山で竜神に降雨を祈願していたことが分かります。＜讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年、飯山町誌編さん委員会編「飯山町誌」1988 年＞

楠見池

昭和十四年九月雨
乞成就の碑

飯野山
昭和十四年九月
雨乞成就の碑
楠見池
(地理院地図に加筆)

前線による豪雨災害

梅雨前線や秋雨前線が活発になって豪雨災害が起こることがあります。通常では考えられないほどの大雨が短時間に一気に降り、河川の氾濫や土砂崩れなどの災害を引き起こします。愛媛県大洲市と高知県土佐清水市の豪雨災害の例をお伝えします。

■梅雨前線による豪雨水害（愛媛県大洲市）

平成 7 年（1995）7 月 3 日から 4 日にかけて、四国付近に停滞した梅雨前線により局地的な豪雨となり、大洲上流域の降雨量は 240～310 ミリを観測しました。大洲第 2 水位観測所の水位は 4 日 10 時 30 分に最高 5.84mに達し、肱川沿川では東大洲地区を中心に約 930 戸が浸水し、田畑が広範囲にわたり被害を受けたほか、国道 56 号バイパスも浸水するなど大規模な水害に見舞われました。このため、平成7年度から5年間で直轄河川激甚災害対策特別緊急事業が行われました。その完成を記念して、白滝地区に肱川治水碑が建立されています。＜建設省四国地方建設局大洲工事事務所・野村ダム管理所・愛媛県編「ひじかわと洪水－肱川平成 7 年 7 月梅雨前線豪雨－」1995 年、建設省四国地方建設局大洲工事事務所編「’95 年 7 月梅雨前線豪雨による被害状況 in 肱川」など＞

肱川治水碑
copyright©2013 四国災害アーカイブス

肱川右岸堤防（大洲市白滝）
copyright©2013 四国災害アーカイブス

肱川治水碑
肱川
矢落川
東大洲
（地理院地図に加筆）

Vol. 121（2022 年 7 月）前線による豪雨災害②

■秋雨前線による豪雨災害（高知県土佐清水市）

平成 13 年（2001）9 月 6 日未明から早朝にかけて西日本に秋雨前線が停滞し、大月町弘見で 24 時間雨量が 520 ミリを観測するなど、高知県西南部では記録的な豪雨となりました。豪雨による 5 市町村の被害は負傷者 8 人、家屋の全壊 25 棟、半壊・一部損壊 275 棟、床上浸水 264 棟、床下浸水 540 棟に上りました。土佐清水市では宗呂川、益野川、貝ノ川の浸水被害が甚大でした。宗呂川の下川口観測所の水位は、6 日 4 時にはほぼ平常の水位の 0.6m でしたが、3 時間後の 7 時には 5.84m へと急上昇し、観測所が水没するほどでした。下川口市民センター前に水位を示した石碑が建立されています。＜高知県土木部河川課・防災砂防課、土佐清水土木事務所、宿毛土木事務所編「平成 13 年 9 月高知県西南部豪雨災害」2002 年、国土交通省四国地方整備局・高知県編「救ったのは　人のつながりー平成十三年九月六日高知県西南部豪雨災害体験集ー」2002 年＞

下川口市民センター前の碑（水位は上の青線まで上昇）

下川口の宗呂川

下川口市民センター前の碑
宗呂川
（地理院地図に加筆）

海岸堤防の決壊

台風に伴う高潮や高波により、海岸堤防が決壊して被害が出ることがあります。明治時代には、今日ほど海岸堤防の整備が充実していなかったため、たびたび災害が起こりました。徳島県阿南市と愛媛県松山市の例をお伝えします。

■大手海岸の堤防決壊（徳島県阿南市）

明治 25 年（1892）7 月 23 日の台風により、今津村（現阿南市）の芳崎（ほうざき）から江野島にかけての大手海岸が破壊されました。その後も台風による被害は明治 35 年、40 年、大正元年、11 年などと続き、そのたびに海岸が侵食され、家や田畑も流されたそうです。特に江野島の海岸侵食は大きく、明治の初めに比べて海岸の位置が 300 m程も後退しています。台風による被害のたびに石垣をつくり土地の流失を防止する取り組みが行われましたが、村の力だけでは限度があるため、大正 14 年に齋（とき）伊久太村長が県知事に懇願し、大手海岸の堤防の修理に県の援助を受けることができるようになりました。それ以来堤防の工事が繰り返され、現在のコンクリートの堤防となっています。今津小学校に齋伊久太翁碑が建立されています。
＜那賀川町小学校社会科副読本編集委員会編「わたしたちの那賀川町」1993 年、那賀川町史編さん委員会編「那賀川町史上巻」2002 年＞

大手海岸（芳崎から北方向）

齋伊久太翁碑（今津小学校）

江野島
大手海岸
色ケ島
齋伊久太翁碑
芳崎
（地理院地図に加筆）

Vol. 122（2022 年 8 月）海岸堤防の決壊②

■大可賀新田の堤防決壊（愛媛県松山市）

明治 17 年（1884）8 月 25 日、台風による高潮のため、山西村（現松山市）の大可賀新田では、午後 11 時頃、北西の堤防が決壊し、一帯に潮が充満しました。このため、戸数約 70 戸の大可賀新田は、溺死者 53 人、家屋の流失 49 戸、田畑流失 53ha の大きな被害をこうむりました。犠牲者を供養するために御名号堂というお堂が建立され、その中に被災の様子が描かれた絵額「明治拾七年大暴風雨津浪之惨状図」が奉納されています。また、三回忌に当たる明治 19 年に御名号堂の敷地内に大可賀溺死者招魂碑が建立されています。＜松山市史編集委員会編「松山市史第３巻」1995 年、愛媛県歴史文化博物館編「四国・愛媛の災害史と文化財レスキュー」2020 年＞

弁天山中腹から大可賀方向

大可賀溺死者招魂碑

松山港
大可賀溺死者招魂碑
弁天山
（地理院地図に加筆）

9 月の台風

9 月は大型で強い台風が四国に接近、上陸することが多い季節です。その時に秋雨前線の活動を活発にして大雨をもたらすこともあります。昭和 20 年代には台風が頻繁に襲来しました。徳島県美馬市の枕崎台風と香川県東かがわ市のテス台風の例をお伝えします。

■昭和 20 年の枕崎台風（徳島県美馬市）

昭和 20 年（1945）9 月 17 日、枕崎台風が九州南部に上陸し、九州を縦断して中国地方を北東に進みました。吉野川流域では前線による降雨も加わって、平地部で 150～200 ミリ、山間部で 350～450 ミリの記録的な雨が降り、吉野川は未曾有の大洪水となりました。穴吹町(現美馬市)では、舞中島、穴吹地区の旧道付近の民家が軒まで水に浸り、穴吹～三島間の国道も冠水し、穴吹の中心街にも濁水があふれました。この水害を契機に舞中島西端から東端に至る明連川堤防の工事が昭和 22 年に着手され、10 余年をかけて完成しました。明連川堤防の完成を記念して、昭和 35 年に大柳神社境内に防災工事記念碑が建立されました。＜穴吹町誌編さん委員会編「穴吹町誌」1987 年、大柳神社の防災工事記念碑の碑文＞

防災工事記念碑(大柳神社)

舞中島西端から東方向をのぞむ

吉野川
舞中島
明東川
防災工事記念碑
(大柳神社)
(地理院地図に加筆)

Vol. 123（2022 年 9 月）9 月の台風②

■昭和 28 年のテス台風（香川県東かがわ市）

昭和 28 年（1953）9 月 25 日、テス台風（台風 13 号）が室戸岬の南東海上を通過し、伊勢湾に進みました。引田町（現東かがわ市）の雨量は 450.1 ミリに達し、小海川堤防は決壊寸前、別惣川は大洪水となりました。また、馬宿川の堤防が 100mにわたり決壊、護岸の溢水等により、床上浸水 160 戸、床下浸水 562 戸、田畑冠水 373ha、道路損壊数箇所及び大川橋・御幸橋の流失という被害が起こり、鉄道線路の道床流失のため国鉄引田～相生駅間は不通となりました。ため池は決壊の危険にさらされ、川股池の流域には緊急避難命令が出されました。馬宿川堤防の災害復旧工事が昭和 28 年～34 年に行われ、その記念碑「豊潤」が堤防の道路脇に建てられています。＜引田町史編さん委員会編「引田町史　自然・原始～近世・文化財」1995 年＞

馬宿川

馬宿川の記念碑「豊潤」

小海川
馬宿川の記念碑
「豊潤」
馬宿川
（地理院地図に加筆）

河川堤防の決壊

台風や前線の活動により豪雨が続くと、河川の水位が上昇して堤防が決壊することがあります。堤防が決壊すると、大量の水が一気に住宅地や田畑などに流れ込んで大きな被害をもたらします。愛媛県松山市の立岩川と高知県安田町の安田川の例をお伝えします。

■明治 19 年の立岩川堤防の決壊（愛媛県松山市）

明治 19 年（1886）9 月、暴風雨に見舞われ、立岩川の堤防が数箇所決壊して大惨事となりました。神田・波田・八反地の 3 村（旧正岡村）では 22 日に立岩川の高土手堤防約 1,300mが決壊し、溺死者 9 人、家屋流失 10 数戸、田地流失 45ha の被害が出ました。また、25 日には尾儀原、才ノ原など立岩川流域各村（旧立岩村）で立岩川の堤防が数箇所決壊して洪水となり、被害は溺死者 18 人、家屋の流失 74 戸、半壊 97 戸、田畑流失 294ha、溺死牛馬 14 頭、被災者 644 人に及びました。立岩川堤防の修築工事は明治 20 年に実施され、明治 26 年に才ノ原の地蔵堂前に立岩川洪水碑が建立されました。＜北条市誌編集委員会編「北条市誌」1981 年、愛媛県警察史編さん委員会編「愛媛県警察史第 1 巻」1973 年など＞

立岩川洪水碑

立岩川洪水碑と立岩川

立岩川洪水碑
立岩川
伊予北条駅
(地理院地図 に加筆)

Vol.124（2022 年 10 月）河川堤防の決壊②

■大正元年の安田川堤防の決壊（高知県安田町）

大正元年（1912）8 月 23 日夜、土佐沖を北上してきた台風が香美郡夜須付近に上陸し、安芸郡は暴風雨と高潮により甚大な被害をこうむりました。続いて 9 月 22 日夜半に県東部海岸をかすめて北上した大型台風により、安芸郡では 21 日～22 日の合計雨量が 500 ミリ前後となり、風水害の被害が大きく、また、その経路が室戸台風に似ていて、安芸郡全域に高潮による被害も大きくなりました。安田村（現安田町）は全体的に大きな被害を受け、古老の話によると「松の大木が根こそぎ倒れ、台風時には無数の火が飛んで昼のようであった」と伝えられ、大正時化（しけ）と呼ばれていました。二度の台風で安田川では西島の堤防が決壊して氾濫しました。安田川大橋のたもとには災害復興記念碑が建立されています。＜吉本珖編「新安田文化史」1975 年、高知県編「高知県災害異誌」1966 年＞

安田川大橋の災害復興記念碑

安田川大橋から安田川上流方向

安田川
西島
安田川大橋の
災害復興記念碑
（地理院地図 に加筆）

安政地震の津波

安政元年（1854）11 月 4 日に遠州灘を震源とする東海地震が発生し、その約 32 時間後の翌 5 日には紀伊半島から四国沖を震源とする南海地震が起こり、四国の太平洋沿岸に津波が襲来しました。安政地震の津波の記録は徳島県牟岐町や高知県香南市の碑にも残されています。

■牟岐小学校前の大震潮記念碑（徳島県牟岐町）

安政元年（1854）11 月 4 日辰の刻（午前 8 時頃）大地震があり、巳の刻（午前 10 時頃）に津波が来たため、人々は恐怖に堪えられず山頂に避難して一夜を過ごしました。翌 5 日申の刻（午後 4 時頃）にも大地震となり、その後丈余の逆波が三度襲来しました。牟岐小学校前の大震潮記念碑には、この津波により家屋の流失 640 戸、溺死 39 人の被害が出たことが記されています。この碑は昭和 6 年（1931）に西青年分団が建立したもので、そこには過去に起こった地震の暦（永正 9 年（1512）、慶長 9 年（1604）、宝永 4 年（1707）、安政元年）とともに、天変地異の兆候に遭えば油断なく避難することが肝要とも伝えています。＜大震潮記念碑の碑文、牟岐町史編集委員会編「牟岐町史」1976 年、猪井達雄、澤田健吉、村上仁士「徳島の地震津波」1982 年など＞

牟岐小学校前の大震潮記念碑

牟岐小学校前の
大震潮記念碑
牟 岐 町
(地理院地図に加筆)

Vol. 125（2022 年 11 月）安政地震の津波②

■上岡八幡宮の安政地震記念碑（高知県香南市）

安政元年(1854) 11 月 5 日の地震による津波について、上岡八幡宮馬場先の安政地震記念碑（明治 15 年（1882）建立）には「嘉永七年寅十一月五日大地震、地所々よりしつみ、浦々人家流失、人いたみ夥敷、上岳山西川原まで浪来る事を記」と書かれています。上岡八幡宮西の川原は物部川河口から約 2.4km 付近にあたります。津波が物部川をさかのぼったことを伝えています。八幡宮から東南方向 250m程の所には「じゃこ田」と呼ばれる低地の田があり、これは津波で押し上げられた雑魚が潮の退いた後にたくさん残っていたため、名付けられたと言い伝えられています。＜安政地震記念碑、野市町史編纂委員会編「野市町史下巻」1992 年、山中弁幸「土佐の大地震津波の碑記録(1)」（南国史談第 16 号）1994 年など＞

上岡八幡宮の安政地震記念碑

上岡八幡宮の
安政地震記念碑
物部川
（地理院地図に加筆）

津波は何度も来る

大地震の後、津波は繰り返し何度もやってきます。昭和 21 年の南海大地震の後も、徳島県や高知県の沿岸部に津波が繰り返し押し寄せて、被害を大きくしました。そのことを徳島県海陽町と高知県土佐市の石碑も伝えています。

■浅川天神社前の南海大地震記念碑（徳島県海陽町）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時 19 分、紀伊半島潮岬沖を震源とする南海大地震が発生しました。海部郡沿岸の各地では地震から 10 分余りで津波の第一波が押し寄せ、さらに 15 分ないし 20 分の周期で第二波、第三波が襲来しました。典型的なＶ字湾である浅川湾では壊滅的な被害を受け、浅川の被害は死者 85 人、負傷者 80 人、住家の流失 185 戸、全壊 161 戸、半壊 169 戸に及び、その他船舶、漁具、家財、農作物の流失被害は計り知れないほどでした。浅川天神社の石段は 11 段ありますが、津波は石段の最上段を越えて拝殿前を 1 寸洗う程度となりました。路面より 6 尺 5 寸（約 2m）の高さになります。天神社前には地震から 10 年後の昭和 31 年 12 月に南海大地震記念碑が建立されました。＜浅川天神社前の南海大地震記念碑の碑文、海南町史編さん委員会編「海南町史上巻」1995 年、浅川村役場震災誌編集委員会編「南海大地震　浅川村震災誌」1957 年）など＞＞

浅川天神社前の
南海大地震記念碑

浅川天神社の石段上南
海地震最高潮位碑

町
浅川天神社
浅川湾
浅川湾
（地理院地図に加筆）

Vol.126（2022 年 12 月）津波は何度も来る②

■宇佐の震災復興記念碑（高知県土佐市）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時 20 分、南海大地震が発生し、間もなく津波が襲来しました。津波は 7、8 度やって来て、3 度目は高さ 5mに達しました。宇佐地区の被害は家屋の流失・倒壊 319 戸、半壊 323 戸、床上浸水を合わせて 1,320 戸に及び、全戸の 8 割 2 歩が被害を受けたことになります。罹災者は 6,250 人に及びましたが、犠牲者は県内の他町と比べて少なく、宇佐では死者と行方不明が各 1 人でした。このことについて、宇佐の震災復興記念碑は「往時ヨリ云イ伝フ欲ヲ棄テテ逃ガレタ者命助カリシト犠牲者ノ僅少ハコノ戒ニヨル」と伝えており、津波を経験した先人が後世の人々に命を守ることが最も大事ということを教えてくれたおかげと記しています。＜宇佐の震災復興記念碑の碑文、土佐市史編集委員会編「土佐市史」1978 年など＞

宇佐の震災復興記念碑

宇佐漁港

宇佐の震災復興記念碑
宇佐漁港
(地理院地図 に加筆)

人名が付いたため池

　ため池の中には人の名前が付いたものがあります。ため池築造にその人物が重要な役割を果たしたことが想像されます。今回は香川県三豊市の勝田池と愛媛県東温市の彦八池についてご紹介します。

■勝田五郎兵衛と勝田池（香川県三豊市）

　寛文 2 年（1662）、豊中町（現三豊市）あたりは大干ばつに見舞われました。田はひび割れ、稲は枯死して、ほとんどの土地で収穫は皆無でしたが、明暦 3 年（1657）に丸亀城下の商人平屋三左衛門がつくった平屋池のおかげで井の口新田 15 町歩だけは豊作でした。これを見て、比地大、笠岡、竹田、下高野の農民は丸亀藩にため池築造を願い出ました。寛文 3 年に藩から池づくりを命じられた郡奉行勝田五郎兵衛は、平屋池を取り込んで大きな池をつくることにし、農民の協力も得て 3 年後の寛文 6 年に完成させました。勝田池の名は勝田五郎兵衛の働きを讃えて、農民が名付けたそうです。勝田池のほとりに勝田池之碑が建立されています。＜豊中町小学校社会科副読本編集委員会編「豊中のすがた」1992 年、高瀬町誌編集委員会編「高瀬町誌」1975 年＞

溜田池

溜田池之碑

溜田池
溜出池之堤
比地大
下高野
笠岡
竹出
（地理院地図に加筆）

Vol. 127（2023 年 1 月）人名が付いたため池②

■武智彦八と彦八池（愛媛県東温市）

重信町（現東温市）拝志地区の上村は、地勢上重信川の水を利用することができないため、水不足に悩んだ地域です。新田が開発された藩政中期以降はますます干ばつ被害が大きくなり、人々は市右衛門谷に池を築く計画を立てました。しかし、この谷には人家、地蔵、墓地が多くあり、その中でもたたりを恐れて墓地の移転が障害となって築池の計画は頓挫しました。この時、組頭の彦八は「近年の旱害見るにしのびず。われ墓を岡野山に移転する故、お上へ進達せられたい。」と庄屋に申し出て、一人で墓も骨もひとつ残らず運びました。池の築造は文化 4 年（1807）に始められ、彦八の義挙を伝え聞いた代官は郡から 1,700 人の人夫を加勢させ、さらに 1,000 人を追加して竣工させました。村人は池を彦八池と名付け、今も彦八の偉業に感謝して供養が続けられています。＜わたしたちの東温編集委員編「わたしたちの東温」2014 年、重信町誌編纂委員会編「重信町誌」1988 年＞

彦八池
copyright©2013 四国災害アーカイブス

武宮彦八之祠

東温市
←重信川
上村
武宮彦八之祠
彦八池
(地理院地図に加筆)

村人を助けたい

江戸時代、用水路の開削やため池築造に中心的な役割を果たした庄屋がいました。暮らしに困窮する村人を助けたいという思いからでした。香川県綾川町の久保太郎右衛門と愛媛県宇和島市の太宰遊淵（だざいゆうえん）をご紹介します。

■萱原用水と久保太郎右衛門（香川県綾川町）

萱原村（現綾川町）周辺は水利の便が悪く、用水確保に苦労した地域です。萱原村の庄屋・久保太郎右衛門は村人の苦しみを救済しようと自ら測量して、山田村（現綾川町）の正末で綾川から取水して大羽茂池に至る用水路の計画を立て、高松藩庁に重ねて願い出ました。元禄 16 年（1703）に計画のうち下流の一部について許可が出たため工事を完成させたものの、十分な成果は得られませんでした。このため、太郎右衛門は藩主に直訴して元の計画を認めるよう嘆願したところ、捕らわれて投獄されました。獄中でも工事の許可を訴え続け、妻や村人も藩家老に釈放を懇願した結果、太郎右衛門は釈放され、宝永 4 年（1707）に用水路の計画に許可が出ました。工事はこの年のうちに完成し、萱原用水の完成によって村々は綾川の恵みを受けることになりました。＜綾南町誌編纂委員会編「綾南町誌」1998 年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年など＞

大羽茂池

久保太郎右衛門彰徳碑

久保太郎右衛門彰徳碑
大羽茂池
（地理院地図に加筆）

Vol. 128（2023 年 2 月）村人を助けたい②

■中山池と太宰遊淵（愛媛県宇和島市）

水不足のため年貢の完納に苦しむ村人を見て、黒井地村（現宇和島市）の庄屋・太宰遊淵はため池の築造を計画しました。遊淵は讃岐の満濃池を調査するなどして、黒井地村の地形から金山と北山に挟まれた谷間（現在地）を選定し、村人の賛同を得て、宇和島藩庁に計画を願い出て許可されました。工事は寛永 4 年（1627）に始まり、延べ 4 万 5 千人の労役を費やし、途中から宇和島藩士の援助を受けて寛永 7 年に完成しました。伝説によると、遊淵は中山池の横の山（現在太宰遊淵の墓のある辺り）に座して工事の采配に当たり、鉦を打ち鳴らしながら、お経を唱えて工事の完成を祈り、完成とともに亡くなったと伝えられています。＜愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986 年など＞

中山池

太宰遊淵の墓

中山池
太宰遊淵の墓
(地理院地図に加筆)

津波を後世に伝える

地震の後には津波が来る、と考えて行動してください。そのことを後世に伝えるために、四国各地に津波にまつわる石碑などが建立されています。今回は昭和南海地震後の津波に関する徳島県美波町の石柱と高知県須崎市の石碑をご紹介します。

■東由岐天神社下の南海地震津浪最高潮位石柱（徳島県美波町）

昭和 21 年（1946）12 月 1 日午前 4 時 19 分、紀伊半島南方沖合を震源とする大地震が発生し、三岐田町（現美波町）には約 10 分後に津波が来襲しました。大勢の住民が津波を予知し、神社や寺の境内、裏山など高所に駆け上がって避難しました。東由岐、西の地、西由岐、木岐地区の海岸に近い住家はほとんど軒下まで浸水し、家具家財類が流失損傷して大混乱となり、港の大小の漁船は堤防や道路の真ん中に押し上げられました。旧三岐田町分の被害は死者 8 人、重軽傷者 24 人、家屋の流失 48 戸、全壊 66 戸、半壊 220 戸、床上浸水 618 戸、床下浸水 70 戸、船舶の流出 39 隻などに及びました。この災害を後世に伝えるため、昭和 57 年に由岐町（現美波町）教育委員会が町内 4 箇所に南海地震津浪最高潮位石柱を建設しました。その一つが東由岐天神社下に建っています。＜由岐町史編纂委員会編「由岐町史下巻」1994 年＞

東由岐天神社

南海地震津波最高潮位石柱

東由岐天神社下の南海地震
津波最高潮位石柱
由岐漁港
（地理院地図 に加筆）

Vol. 129（2023 年 3 月）津波を後世に伝える②

■野見海岸の震災復旧記念碑（高知県須崎市）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日、南海大地震が起こり、須崎湾には地震後約 10 分で津波の第一波が襲来しました。津波はその後 2 時間半に 6、7 回来襲し、特に第三波が大きかったと言われています。野見では、津波の侵入は比較的緩慢でも引潮は速く、このため防波堤が 300m余破られ、船舶･漁具･家財道具の流失破損は夥しい数に上りました。昭和 26 年に建立された野見海岸の震災復旧記念碑には、地震終息後津波来襲まで約 15 分で、住民は貴重品を携えて裏山に避難した、浸水最高潮位は約 15 尺（4.5m）となった、野見では家屋の流失・全壊・半壊が相次ぎ 170 余戸のうち被害を受けなかった家は 20 数戸にすぎなかった、幸いに人畜の被害は皆無だったことなどが記されています。＜須崎市史編纂委員会編「須崎市史」1974 年、大家順助編「須崎消防の歩み第 2 巻」1985 年＞

野見海岸の震災復旧記念碑

震災復旧記念碑の案内

須崎港
須崎市
野見海岸の
震災復旧記念碑
(地理院地図 に加筆)

四国災害アーカイブスの概要

■利用の方法

四国災害アーカイブスは、インターネットを通じて利用していただきます。

四国災害アーカイブス http://www.shikoku-saigai.com

■収録されている災害データ件数

四国災害アーカイブスに収録している災害データ件数は、29,772 件です（令和 5 年 4 月現在)。

■収録されている災害情報の内容

災害の種類	1)地震・津波　6)雪害 2)土砂災害　7)火山災害 3)渇水　8)大規模な火災 4)風水害　9)その他 5)高潮
災害情報の概要	災害の状況、被害の様子、地域の人々の対応、被害軽減の取り組み、等
情報収集の範囲	四国で被害が出た災害で、時代が特定できるもの
情報収集対象物	上記の情報を記載している印刷物または電子データ、および現地調査情報 ・市町村史、郷土史　・事業誌 ・災害記録、災害体験集　・写真集 ・学術論文、雑誌論文　・その他文献等
関連情報	・災害現場、石碑、痕跡等の位置情報及び写真 ・原資料ＰＤＦ（著作権者から許諾が得られた場合）

■四国災害アーカイブスでお伝えしたいこと

四国災害アーカイブスで、皆さまに以下の３つのことをお伝えできればと考えています。

①身近な所に災害の歴史があります

平成 23 年に東日本大震災が発生し、地震・津波への関心が高まっていますが、四国では過去に地震・津波だけではなく、風水害、土砂災害、高潮、渇水などさまざまな災害がたびたび起こってきました。皆さんの身近な所にも災害の歴史があります。

②人々が災害に立ち向かってきた歴史があります

災害に対して、人々はただ手をこまねいていただけではありません。できるだけ災害が起こらないように、またできるだけ被害が大きくならないように、その時々に応じた取り組みが行われてきました。先人の努力や工夫の積み重ねの上に、今日の四国があります。

③災害にまつわる石碑や痕跡などが各地にあります

各地に災害にまつわる石碑や痕跡などがあります。石碑には子孫に災害の教訓を伝えたいという先人の強い思いが込められています。皆さんが災害にまつわる石碑や痕跡を訪ね、改めて災害や地域のことを考えるきっかけにしていただけるよう、できるだけ現場の地図や写真を提供しています。

メールマガジン配信中

四国災害アーカイブスのメールマガジンを毎月発信しています。メールマガジンの受信を希望される方は下記にメールをお送りください。
E-mail: info@shikoku-saigai.com

アーカイブスあらかると
Vol.118～129（2022年4月～2023年3月）

四国災害アーカイブス事務局
（一般社団法人　四国クリエイト協会）
〒760-0066　香川県高松市福岡町3-11-22
電話 087-822-1676　FAX 087-823-8569
http://www.shikoku-saigai.com

2023.4